

令和5年度 岡山県協同農業普及事業外部評価について

1 目的

多様化する農業者等のニーズに対応し、高い普及指導活動の成果を上げるためには、農業者や関係機関、団体等と担い手育成や産地育成の課題、目標、戦略、役割分担等を共有化することが重要である。

そこで、農業者や関係機関、団体等と活動経過を検討し、その結果を今後の効率的・効果的な普及指導活動に資することを目的に普及指導活動検討会(外部評価)を開催する。



2 実施概要

普及センター	開催日	報告課題	評価委員
備前広域	令和5年 11月9日	「新規栽培者の早期経営安定と産地・地域の担い手育成」他3課題	農業者 7名 関係機関 (農協、市町他) 11名
東備	令和5年 12月22日	「水田利用の夏秋なす産地育成」他1課題	農業者 3名 関係機関 (農協、市町他) 7名
備南広域	令和5年 11月24日	「新技術の活用と晴苺の取組によるいちご産地の活性化」他3課題	農業者 10名 関係機関 (農協、市町他) 8名
井笠	令和5年 11月10日	「ぶどうの担い手の確保・育成と産地の活性化」他2課題	農業者 5名 関係機関 (農協、市町他) 13名
備北広域	令和5年 11月17日	「鬼退治桃太郎トマトの産地育成と生産力強化」他3課題	農業者 4名 関係機関 (農協、市町他) 5名
新見	令和5年 11月6日	「担い手の確保・育成」他1課題	農業者 5名 関係機関 (農協、市町他) 4名
美作広域	令和5年 11月24日	「トマト販売額UPに向けた挑戦」他2課題	農業者 6名 関係機関 (農協、市町他) 8名
真庭	令和6年 1月16日	「ぶどうの産地力強化と高品質安定生産の推進」他2課題	農業者 3名 関係機関 (農協、市町他) 6名
勝英	令和5年 11月27日	「新規就農者の確保と育成」他2課題	農業者 6名 関係機関 (農協、市町他) 6名

3 評価委員からの主な意見

(1) 備前広域農業普及指導センター

「新規栽培者の早期経営安定と産地・地域の担い手育成」

コロナ明け後、就農相談が減少。就農者数より、就農後のフォローアップをどうするか検討が必要である。

(2) 東備農業普及指導センター

「水田利用の夏秋なす産地育成」

年間売上確保のため、他の野菜との組合せが必要。現状、エンドウ、ホウレンソウなどが良いと考えるが、その他、希少価値のある野菜品目などを検討する必要がある。

(3) 備南広域農業普及指導センター

「新技術の活用と晴苺の取組によるいちご産地の活性化」

東京行きのトラックの輸送、集荷が難しい現状、二の足を踏んでいる。晴苺のさらなる東京出荷に向けて流通に関しても検討してほしい。

(4) 井笠農業普及指導センター

「ぶどうの担い手の確保・育成と産地の活性化」

担い手の確保・育成、安定生産技術の確立による課題解決に向けて、生産組織、関係機関で連携し、継続的に活動していくことが求められる。

(5) 備北広域農業普及指導センター

「鬼退治桃太郎トマトの産地育成と生産力強化」

普及計画にある就農5年以内の人への指導については、個人ごとに違いがあり、一律に5年以内にするのは現実に即していないと思う。

(6) 新見農業普及指導センター

「担い手の確保・育成」

新規就農者を受け入れ後、産地でトラブルとならないよう、研修中から地域性や部会の特徴などについて丁寧に説明してほしい。

(7) 美作広域農業普及指導センター

「トマト販売額UPに向けた挑戦」

雇用労力の不足は園芸全般の課題であると感じる。今後、外国人など人材が多様化していくと思う。人材への技術向上などの支援も行ってほしい。

(8) 真庭農業普及指導センター

「ぶどうの産地力強化と高品質安定生産の推進」

リタイヤする生産者が目立ち始めた。生産者からぶどう栽培を止めたいとの話を聞く。現状の生産量を維持しないとマーケティングも成り立たない。辞める生産者と就農希望者のバランスを保ちたい。

(9) 勝英農業普及指導センター

「新規就農者の確保と育成」

募集にあたって勝英地域のアピールポイントを掘り下げてはどうか。また他の地域での就農者の決め手はどうだったかを調査してはどうか。

4 結果の活用

結果は、次年度以降の普及指導計画の立案及び活動に活用する。